

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2275100176		
法人名	有限会社 吉田工房		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地 (電話番号)	焼津市下小田146	(電 話) 054-625-0068	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年6月24日		

【情報提供票より】(20年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9人
職員数	11 人	常勤4人, 非常勤 7人, 常勤換算 3.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:24ヶ月)
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 12日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	75 歳		96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡本石井病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設の周りには道路や新しい施設が造られ、環境が年々変化しているが、利用者は穏やかな表情で生活をしている様子である。地域の人たちとの信頼関係を確実に築き上げている。利用者は自分の家として、自分の希望を伝えている。職員はより良い施設の取り組みに非常に前向きである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価、自己評価の意義を理解し、問題点や課題を共有して日々のケアに活かしている。評価を重ねていくことで、さらにハードルが高くなっていくが、それに向けて努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が取り組んでいる。取り組むことで気付かなかったことの発見にもつながり、問題を明らかにして、全員が共有の課題としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進委員会の定期的な開催が定着し、参加者の理解が深まっている。参加者の意見を新鮮に受け止め、様々な立場の方々の参加でホームの活性化を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が気軽に意見を言える関係ができていて、運営推進会議にも参加してもらっている。意見に対しては適切に対応しており、今後も良い関係作りを期待する。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域に「たんぼぼの家」として定着し、近所の人や買い物に行く店の人と馴染みの関係ができていく。今後は、防災訓練等に近隣の人との協力関係を作り上げることを期待する。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく、自由の中での自立支援、ゆったり楽しく」の理念を掲げ実践している。ホームはゆったりした雰囲気の中で利用者は穏やかな表情で生活している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を理解して積極的に取り組んでいる。「ゆったり、楽しく」を常に心がけ笑顔で接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	天気の良い日は散歩に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしていて、自治会の行事に参加したりしながら、地域住民として認知され始めている。	○	温泉の湯を伊豆から運び、足湯を開設して、地域の人たちに開放している。地域の人たちとの交流の場となることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価の意義を理解して、日々のケアに活かそうとする意識は高く、積極的に改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を通じ、ホームが外部の人に理解されるように、また会議の意見を運営に生かせるように心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年間を通じて介護相談員を受け入れ、利用者と話をしている。市へ出向き、必要な情報を入手し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には日常生活を詳細に伝えている。訪問の少ない家族には郵送で状況を伝えている。家族アンケートからも信頼関係が築かれていることが伺える。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設けているが、ほとんど投書はない。運営推進会議に家族が交代で参加し、意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職は少なく、定着率が高い。異動も最小限に抑えているが、その際には職員に細かく指導を行い、利用者の受けるダメージを少なくできるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員体制の中で、資格取得や資質向上に積極的に取り組んでいる。	○	職員はグループホームの良さを認識して、資質向上を目指している。経験に応じた学びの機会を計画的に確保できるよう体制を工夫されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の老人ホームやデイサービス、地域のグループホームと情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居をした後に、家族と職員が十分なカンファレンスを行い、様子を見ながら、どのような対応が良いのか検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からそれぞれの歩んできた人生の話を聞きながら、共に過ごし、生活の知恵を学ばせてもらったり、喜びを共有している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との暮らしの中で、その言動や表情から意向の把握に努めている。テーブル拭き、食器拭き、洗濯干しなどの家事や、菜園での野菜の手入れ、花の水やり等、利用者が選択して役割を担っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの課題やケアの方法を職員間で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月分の見直しや急な変化に対応した計画作成を行っている。家族にもその都度相談している。	○	見直し期間を短縮し、変化が見られない場合も新鮮な目で状況や意向を確認する取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1Fのデイサービスと交流があり、合同で催しを開催したり、看護師にアドバイスを受けている。また足湯を開設し、地域に交流の場を提供している。	○	個々の利用者や家族、また地域住民のニーズに応じて、その暮らしの安心へつなげるサービスの提案も検討されたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医と連携をとり、受診を支援している。協力病院との関係も良好である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最後まで看取りたいという思いは強いが、グループホームの限界を感じ踏み切れていない。	○	他のグループホームでの実践を参考にするなど、実施に向け検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は誇りやプライバシーを損ねることなく自然に対応している。言葉かけや名前の呼び方は、利用者が育った土地の言葉を使うなど利用者に合わせてさりげなく行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念である「ゆとり」が浸透して、穏やかな生活が営まれている。散歩も身体の状態に合わせ、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	周囲に大きなスーパーが数軒あるので、利用者と一緒に広告を見て献立を考え、買い物に行っている。昼食は菜園で収穫したものを取り入れたり、食事中はテレビを消して、ラジオに切り替え、音楽などで食卓が和むように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる曜日は決めているが、入浴時間は希望に沿って行っている。伝統的な、菖蒲湯、柚子湯、お茶殻の湯なども楽しんでいる。	○	今後はそれぞれの習慣やその日の状態に合わせて、曜日を定めることなく、支援できる体制を工夫されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を家族から聞き取り、家事を分担したり、できることを見つけ役割が持てるように支援している。	○	日々の暮らしの中で、それぞれに合った楽しみや役割を見つけられるよう、様々な場面で工夫した働きかけを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日散歩に行き交代で買い物にも行っている。外には菜園や庭がありベンチを設置しているので、外気浴を楽しんでいる。足湯も外に設置されているので活用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵をかけず見守りを行なっている。帰宅願望の強い利用者には、一緒に出掛け、根気強く対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行い、職員の意識付けをしている。消防署との協力体制もできている。	○	運営推進会議等で働きかけるなど、地域との協力体制作りを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を共にし、食べ具合や嗜好を観察して食が進むように声掛けをしている。協力病院の管理栄養士に献立のアドバイスを依頼し、バランスを考えて調理している。	○	毎日の食事量や体重の変化をチェックし、水分は10時と15時のおやつの際にも補給して、細やかに対応している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には利用者と職員が一緒に作った作品が飾られ、季節感が漂っている。静かな環境で、利用者にとって居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人の大切なものや、思い出のあるものが並び、個性のある部屋になっている。部屋の入り口には目印ともなる好みののれんが掛けられ工夫されていた。画一化されていない柔らかな雰囲気となっている。		